

子ども同士の 交流

生活科「京都御苑の交流からの授業・保育展開」

～秋の自然物を使つての遊びや遊びに使うものを作る～ 5歳児・1年生 11月

取組のねらい

5歳児：御苑で集めた木の実や葉っぱなどを使って遊ぶことを1年生と一緒に楽しむ。

1年生：5歳児を招待する「あそび大会」のために、秋の自然物を使った遊びを考え、工夫してコーナー作りをする。

取組のポイント

- ・オンラインで作品紹介の交流をした後、「幼稚園、保育園の友達と一緒に遊びたいね」「僕がつくったけん玉を見せてあげたいな」等の声が1年生から上がり、「あそび大会」に5歳児を招待することになった。

→自分たち(1年生)の願いを実現するために主体的に活動＝「あそび大会」への意欲

- ・本時までにドングリや松ぼっくり、枝や落ち葉等の素材に存分に関わる時間をもち、紐やカップ、ボンド等子どもが使いたい材料を用意した環境設定。

→子どもの必要感からの環境設定

- ・5歳児と1年生が、互いのつくったものを見せ合えるように、単元の始めから幼稚園とオンラインでつなぐ。→子ども同士の関わりの継続、活動のつながり

実践内容

単元「あきとともにだち」の始めから幼保小のオンライン交流



パソコンの向こうの
園児に説明中!

見てみて。
こんな遊びを考えたよ。



わたしたちは
松ぼっくりで
クリスマスツリー
をつくったよ。

小学校の「あそび大会」に5歳児を招待する、1年生がつくった遊びのコーナーで1年生と一緒に遊ぶ授業



これは、クレープだよ。
(お店やさんの品物紹介)

ぼくは、けん玉が
1番楽しかったよ。



交流を振り返って

御苑での交流後からオンライン上ではあるが、5歳児が考えた遊びを1年生に紹介したり、1年生がつくったものを見たりして、ともに刺激を受けて日々、遊びが続き、1年生が発案した「あそび大会」への意欲につながった。「あそび大会」では、具体的につくったものを見て、5歳児は、より興味をもってコーナーで遊んだり、1年生にリードされたりし、親しみや憧れの気持ちをもちながら楽しんでた。1年生は、楽しんでもらいたい、作品を使ってもらいたいなど個々に考えて関わり、自分たちが開催した「あそび大会」を5歳児が楽しみ、喜んでる様子を見て、達成感や満足感、自信につながった。5歳児のためにという相手意識をもちながら取り組む様子に1年生の成長を感じた。